はじめに

附属特別支援学校長
吉川　はる奈

春の日差しが待ち遠しい 2 月 5 日土曜日、令和 3 年度　埼玉大学教育学部附属特別支援学校　授業実践研究会をオンライン開催として、無事終了することができました。本日はここに、研究集録をお届けいたします。多くの方々からの日頃のご指導やご支援に感謝申し上げる次第です。

今年度も昨年度に引き続き、コロナ対策と並行しながらの学校活動となりました。学校全体が ICT を日常的に活用しながら、つまり児童・生徒も教職員もさまざまな場面で ICT を併用しておりました。見えない出口や感染状況の変化の中で変わらないのは、児童・生徒の活き活きした表情、まなざしでした。彼らの姿を前にこれまで以上に授業に対するパッションは高まったように思います。そのような中で成果発信のコンセプトは「子どもの学びを保障する授業実践を高めあうメッセージを」とし、本校の授業実践を材料に互いに学びあう機会、つながり合える機会、研究の発信の重要性を体感しあう機会となることをめざしました。準備過程では、メンバーが議論しあうことの繰り返し。コロナ・ウイルス・オミクロン株の急拡大によって、本番直前には緊張が走りましたが、連携して無事乗り切り見事でした。

本実践報告集は、その一部ではありますが、報告集として、みなさまにお届けするものです。昨年の研究協議会オンライン開催の後、参加者から、移動時間を短縮することができ、限られた自分の時間で視聴でき、再確認でき、事前視聴できる、という声を多くいただきました。今回もオンライン開催でのメリットを活かしながら、それを補い、再確認する共有情報として本集録をご活用いただけたらと思います。どうぞ、じっくりお目通しいただき、できれば、ご意見、ご感想など、ご教示いただけますと幸いです。

本校は「子ども達の自立と社会参加を目指した、体験的な学習」を重視しております。令和 4 年度は 50 周年を迎えます。50 年という大きな節目を前にし、多くのこれまで積み重ねてきた知の財産を「継承」しつつ、あらたな時代やニーズにあわせた「改革」をあわせつつ次のステージにむかう時期であると認識しております。

今年度もコロナ禍での学校運営となりましたが、その中で得た新たな方法、取り組みも大切にしつつ、あらためて学校教育の原点に立ち返り、特別支援教育に携わる多くの先生方とともに『子どもの育ちを真ん中に』子どもが『力を発揮する授業』『積極的に学習に取り組み、活躍する授業』、そのような授業を常にめざしていきたいと思います。

結びに、本実践研究会の開催にあたりご指導やご講演いただいた SOZO.Perspective 代表理事　海老沢穣先生、埼玉県教育局県立学校部 ICT 教育推進課指導主事　佐藤幸博先生、埼玉県立騎西特別支援学校高久聖也先生、埼玉大学教育学部特別支援教育講座の先生方、ご支援いただきました埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、埼玉県連合教育研究会、埼玉県特別支援教育研究会、埼玉大学坂井学長、薄井教育学部長はじめ関係の皆様、ご参会のみなさま、そして本校研究企画係他全教職員に感謝いたします。

目 次

〇はじめに　校長 吉川はる奈
〇目次

第1章 総論

Ⅰ 学校紹介 学部紹介　1
Ⅱ今年度の研究について　3

第2章 実践研究報告

〇テーマごとの実践報告　10～51

第3章 まとめ

Ⅰ 実践研究の成果と課題　52
Ⅱ 参考資料　54

〇おわりに　副校長 池澤 健
〇執筆者一覧

Ⅱ今年度の研究について

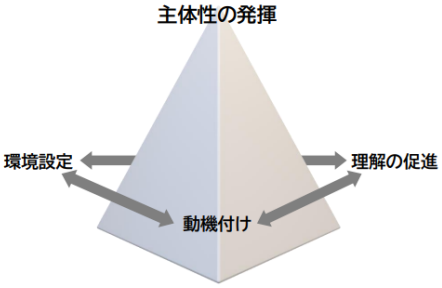
１ 近年の研究の成果

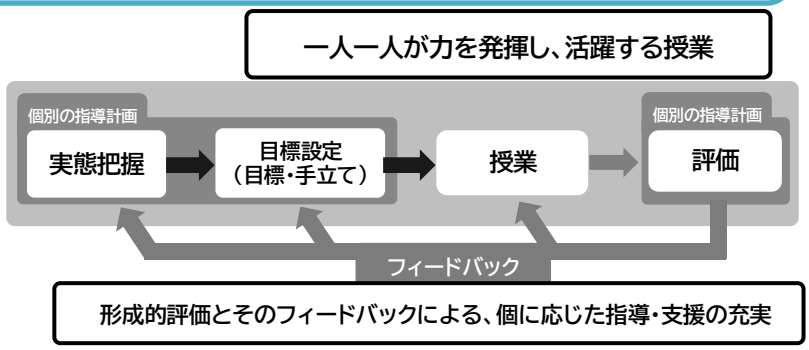
平成 19 年～　すすめよう児童生徒の社会参加
～特別支援学校で取り組む指導・支援と教育課程～
○目指す社会参加の姿３つと、教育課程の見直しの実施

平成 22 年～　知的障害のある児童生徒へのキャリア教育の在り方を探る
～児童生徒の「自己実現」をめざす取り組み～
○１２年間をつなぐ「将来像」の設定

平成 25 年～　自分の力を発揮し、生き生きとした姿をめざすキャリア教育の実践
～子どもの将来を見据えた指導を求めて～
○「理解の促進・動機づけ・環境設定」の３つの視点からの授業づくり

平成 28 年～　一人一人が力を発揮し、活躍する授業づくり
～実態把握からの目標設定と、評価のフィードバックを通して～
○「授業づくりにつながる個別の指導計画の作成」と、「個別の指導計画につながる授業の評価」





２ 今年度の研究にかかわる課題意識

前年度までの研究を受けて、今年度の研究に関わるニーズとして５点挙げられた。

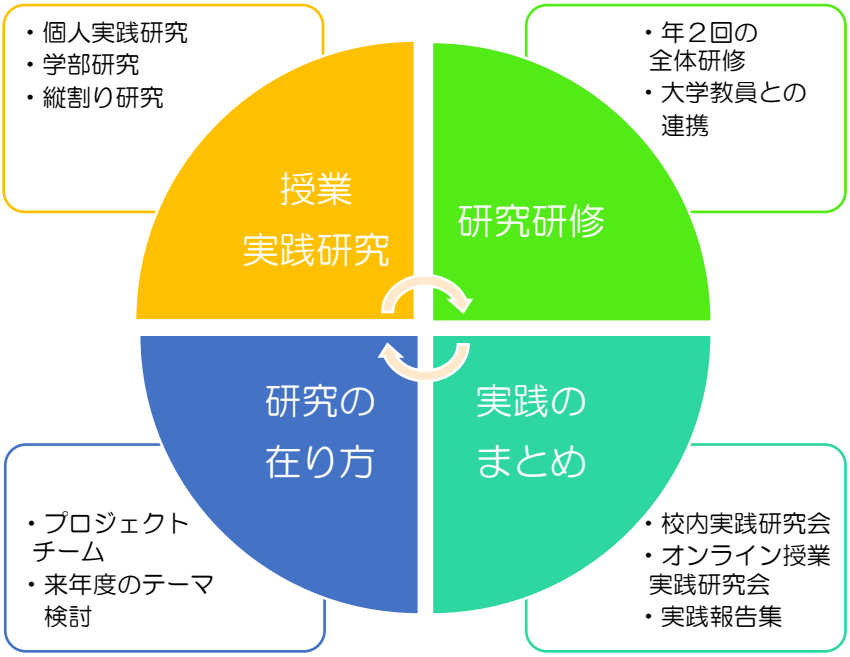
○授業づくりや教材づくりに関わる実践力を高めたい
○シンプルで分かりやすく、活用のしやすい研究を共有・発信したい
○GIGAスクール構想で導入されたICT機器を有効に活用したい
○来年度以降の「研究の在り方」を考えたい
○働き方改革に応える、過度な負担のかからない研究としたい

近年のキャリア教育や、授業づくりＰＤＣＡサイクルに関わる研究は、本校の児童生徒の自立と社会参加に向けた、「１２年間をつなぐ将来像の考え方」「生き生きとした子どもの姿を目指す授業づくり３つの視点」「個別の指導計画と授業をつなぐワークフロー」等の成果を生み出す意義深いものであった。一方、上記のように具体的な授業づくり実践力の向上や、共有・発信のしやすさについては課題が挙げられ、対する方策としてＩＣＴ機器の活用等の案が挙げられた。併せて、新学習指導要領やカリキュラムマネジメントを始めとする様々な時代のニーズの中で、本校の研究の在り方についても、内容・手段・体制等を再考していく必要性が挙げられた。以上の点から、今年度の研究の方針を次のように設定した。

3 今年度の研究方針

〇授業づくりや教材づくりに関わる実践力を高め、子ども達と共によりよい授業を創る。（ICTの活用をキーワードに）
〇校内みんなが共有し、学校外へ分かりやすく発信する。
〇本校の研究の在り方を、見直し、検討する。

4 研究の概要・方法



１授業実践研究について
・ＩＣＴの活用をキーワードに、担当の授業や生徒を対象に授業実践研究を行う
・学部研究や縦割りグループ研究を通し、実践を深めていく。

２ 研究研修について
・ＩＣＴの活用及び、時代のニーズに即した全校研修を実施する。

３ 実践のまとめ
・校内授業実践研究会およびオンライン授業実践研究会を実施する
・授業実践研究報告集を作成する。

４ 研究の在り方
・本校の研究の方向性や目的、実現のための具体的な手立てを検討する。
・来年度のテーマを検討し、実施要項を作成する。

5 ICTを活用した授業実践研究について

GIGAスクール構想［文部科学省］	・1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、 **多様な子ども達一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる**教育ＩＣＴ環境を実現する。 ・これまでの我が国の教育実践と最先端のＩＣＴのベストミックスを図り、 **教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。**

授業づくり
実践力の向上

×

ＩＣＴ機器
の有効活用

＝

個別のテーマに基づく研究から
子ども達の学習活動の一層の充実

子ども達の学びの充実と授業改善を実践研究の全体のねらいとし、共通のキーワードとして「ＩＣＴの活用」を設定した。教員それぞれの担当している児童生徒の諸課題や、指導上のニーズに合わせて個別にテーマを設定し、研究を進めることとした。

個人実践研究（それぞれがテーマを設定）

1研究目的

・テーマに関わる課題の所在
・対象授業や事例児童生徒の実態等

本研究のねらい

2手だての設定

指導場面	目指す姿	指導・支援の手だて

ＩＣＴの活用

活用のポイント　　使用したICT機器

3指導の実際

4成果と課題

個人実践研究においては、年間を通してこのようなフォーマットに基づき研究を進めることとした。研究の目的から指導場面、目指す姿、指導・支援の手だてを設定、テーマに関わる課題解決を目指してきた。今年度の実践研究テーマは一覧の通り、様々な観点から設定されている。

6 テーマ一覧

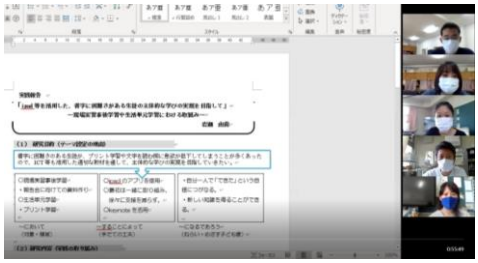
学部	分野	テーマ	実践報告者
小	音楽	拍や特徴的なリズムに気づく学習における ICT 機器活用の取組み ～教科別の学習「音楽」における ICT 機器活用の取組み	荒木魁斗
小	生単	ICT を活用した学習活動と、児童の主体的な活動を目指して ～生活単元学習における体験的学習活動を通して～	三浦光里
小	体育	体育における指導・支援の工夫 ～記録映像を活用した授業改善を通して～	平田祐也
小	自活等	ICT 教材を活用することによる児童の注視の度合いに関する研究	石川和宏
小	自活等	ロ形模倣に向けてのアプローチ	高橋杏実
小	国算等	マッチング課題に対する ICT 教材の作成と活用について	今井あゆり
小	ICT全般	ZOOM を活用した授業における指導・支援について ～小学部の実態に即したオンライン学習にむけて取組み～	鈴木健太
中	生単	生活単元学習における、生徒が主体的に取り組むための指導・支援の充実～動画や静止画教材で活動内容や役割・手順の確認	佐藤孝
中	音楽	音楽活動に興味をもち、音や音楽に楽しく関わる姿を目指して ～ICT機器を活用した音楽の授業における取組み～	春日知花
中	自活等	AAC を活用した、生徒が自主的に活動に向かう姿を引き出すための取組み	大崎由香里
中	ICT全般	ICT機器を活用した生徒の自己表現を実現する取り組み ～タブレット端末を用いた動画制作を通して～	木皿優
中	国語	正しい言葉や文章で相手に伝えよう ～ICT機器を活用して～	石松紫織
中	国算等	iPad・Teams を活用した深い学びの実現を目指して ～各教科および自立活動における取組みを中心として～」	仙石大吾
中	体育	ICT 機器を用いた運動の習慣化を目指して ～学校と家庭をつないだ主体的に運動するための取組み～	鈴木康平
高	生単等	高Ｉギャップを乗り越えるための学級づくり ～パワーポイントを活用した授業の取り組み～	松岡加織 安部千香子 谷内田怜
高	国語等	読み書きに困難さがある生徒の主体的な学びの実現を目指して ～iPad 等の音声入力・読み上げ機能を活用した取組み～	岩瀬由莉
高	ICT全般	Sphero を使用した、他者とのつながり感じる活動	須田淳
高	ICT全般	スケージュール管理の方法・手段の考察 ～「Google カレンダー」「リマインダー」の活用	柿沼隆太
高	音楽	動画等を活用した、より主体的な音楽表現の実現を目指して ～合唱・器楽合奏における取組み～	茂木絢美
高	自活等	自分の力を発揮しながら集団活動において活躍する姿を目指して～～ ～心臓疾患のある生徒のスマートウオッチを活用した取組みを通して～	綿谷衛
高	作業	清掃活動に必要な動きや主体的に取り組む力を高めるための取組み ～動画を活用し、自分や他者の動きから、自らの課題を探す学習を通して～	齊藤可奈子

7 実践研究を深めるために

学部研究や課題別グループ研究

学部研究

（月１回程度）



分野ごとの課題別Ｇでの zoom 検討

学部や、課題別グループの先生方の多様な視点からの検討ができました。

研究研修で学ぶ

特別支援教育におけるICT活用の実際
埼玉県教育局県立学校部ICT教育推進課
ICT教育指導担当　指導主事　　佐藤　幸博氏

ICTを活用した実践紹介
埼玉県立騎西特別支援学校
教諭　高久聖也氏

本日の内容

1. GIGAスクール構想
2. 障害の特性に応じたICT活用
3. 埼玉県の取組紹介
   - 実践事例（動画あり）
   - ICT環境整備
4. 他県の取組紹介
   - 沖縄県の実践事例（動画あり）
5. 質疑応答

ワークショップ①

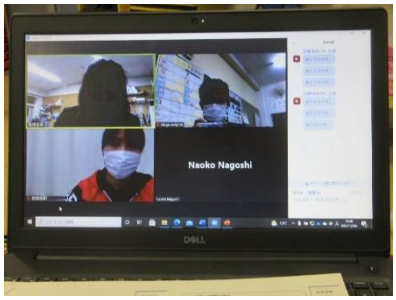
「Paintone」を使ってみよう！

1　左下「＋つくる」
2　左下「＋」
3　指マークで絵を描くor写真マークで画像取り込み
4　ボイスマークで録音
5　レ点ボタンで完成
6　作ったアイコンを上の白ゾーンに配置
7　必要なだけ繰り返す

ＧＩＧＡスクール構想に基づく埼玉県の施策や具体的なＩＣＴ活用の取り組み、ワークショップも通した実践紹介等、様々な視点からの御示唆を頂きました。

大学の先生方との連携

埼玉大学教育学部　特別支援教育講座
教授　葉石　光一氏　　准教授　山中　冴子氏　　教授　名越斉子氏



対面や zoom を併用した研修の実施

年間を通して、テーマごとの縦割りグループを中心に一人一人の研究に専門的知見から様々な御指導・御助言を頂きました。

校内実践研究報告会

１１月と１月に
全校で実施
各教室を発表会場とし、参加者は回毎に様々な発表を共有できる形とした。

発表と共有を通して、研究を深め、児童生徒への指導支援に活かしていくことができました。学部間の実践を知り合う良い機会となりました。

8 研究の経過

月	研究に関する主な活動
4	○第１回 研究会議：研究方針　今年度の研究についての確認
5	○学部研究：各自研究テーマ設定および研究計画の共有
7	○研究研修：「特別支援教育におけるＩＣＴ活用の実際」
	講師：埼玉県教育局県立学校部ＩＣＴ教育推進課ＩＣＴ教育指導担当　指導主事 佐藤 幸博氏
8	○第２回 研究会議：縦割りグループでの研究経過共有　来年度の研究の在り方検討①
	○研究研修：「ＩＣＴを活用した実践紹介」
	講師：埼玉県立騎西特別支援学校　教諭　高久聖也氏
9	○学部研究：研究経過の共有および検討
10	○第１回校内授業研究報告会（11 月１２日）
11	○外部指導者による学部研究指導(年間を通して)
	埼玉大学特教育学部別支援教育講座　葉石光一氏　山中冴子氏　名越斉子氏
	一般社団法人 SOZO.Perspective 代表理事　海老沢穣氏
12	○第３回 研究会議：次年度の研究の在り方検討②
1	○第２回校内授業研究報告会（１月５日）
	○学部研究：オンライン授業実践研究会に向けて　研究のまとめ
2	○「オンライン授業実践研究会」開催
	○「授業実践研究報告」発行及び配付
3	○第４回 研究会議：今年度の研究のまとめと次年度の研究について

９ 令和３年度研究指導者

埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	教授	葉石 光一　様
埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	教授	名越 斉子　様
埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	教授	山中 冴子　様
一般社団法人　SOZO．Perspective	代表理事	海老沢穣　　様